

混和会とは、共に許し合いながら、他の人格を尊重し、共に生きる和の構築を目指す集いです。

# ほとけの 混和会だより

令和元年七月

東光院

仏の混和会

第141号

## 阿弥陀如来



**「南無阿弥陀仏」とは  
己の命を任せきる  
生きるよりどころ**

阿弥陀さまのお顔は、あらゆる人びとを等しく救いたいという願いが成就して、ほほえんでいらっしゃるお顔です。

そして私達に「大丈夫、安心していいんだよ」と、喚びかけてくださっているお姿のようにも受け取れます。

その阿弥陀様のお顔やお姿を「南無阿弥陀仏」と拝することによって私達の心中には、ほのぼのとした安堵の思いが沸き起こって参ります。

この「南無阿弥陀仏」とはどのような意味かと申しますと、インドの人々は「ナマステ」と挨拶されます。この「ナマス」とは帰依、尊敬、委ねると言う意味で漢字で「南無」と記し「テー」とは貴方と言う意味ですから

「ナマステ」とは貴方に帰依します。貴方を敬います。全て貴方にお任せします。と言う意味に成ります。

次に阿弥陀とは、これもインドの言葉に「アミータ」という言葉があります。「無量」永遠とも言える時間を司ると言う意味です。つまり、私達は大自然の永遠とも言われる営みの中に抱かれ生かされている訳であります。

よって阿弥陀さんの事を「無量寿如来」とも言われ永遠の幸を授けて下さる仏様であります。

私達が生きて行く上に於いては「四苦八苦」どうにも成らない苦しみが沢山ありますが、どうにもならない苦しみをとやかく思

るばかり、ならば己の苦しみや迷いを全て「南無阿弥陀仏」と念じて阿弥陀様にお任せして見るのです。すると不安は和らぎ

安心と笑みが抱けて参ります。そのほほ笑みが善因の種となり穏やかな御心が抱かれ良い結果へと導かれます。

よって「南無阿弥陀仏」とは何事も全て阿弥陀仏に任せ委ねる事です。

そこで会得された安心に満ちた御心によって周囲の人々も導かれる広大慈悲の念仏で言葉では言い尽くせない名号です。心の「よりどころ」と定めたいと存じます。



熊野古道

**熊野は  
神仏習合  
の聖地**

六月二日  
三日間  
熊野古道  
を歩いて参  
りました。

古来より熊野道は信仰の原点として崇め奉られ尊ばれて参りました。その真意を肌で感じ取りたいとの思いから参拝の決意を起したのでした。

しかし私にとって熊野詣では未知の世界、どのような経路をたどつたら良いのか交通手段は宿泊地は解らないことだらけ、とりあえずツアーに参加してみようと安易な方法を選択しました。

ところが後白河上皇は次のように詠って居られました。  
「熊野へ参るには紀路と伊勢路  
どれ近しどれ遠し広大慈悲の  
道なれば紀路も伊勢路も遠か  
らず

熊野へ参らむと思へども徒歩より参れば道とおしすぐれて山きびし馬にて参れば苦行ならず空より参らむ羽賜べ若王子」

巡礼の道は楽をしてはならない。自ら歩き難行苦行を経てこそ世俗の業を払い清めることができるのだ。巡礼の道とはそれ自身が道場であり、息も絶え絶えに歩くことが修行なのだ。

苦しみの末に尾根に立つと、視界は明るく開け、果て無き山脈が目の前に長々と横たわっている。明らかにそれは救済の風景だと言っておられるのでした。

なんと私の判断は最初から誤りの参拝と成ってしまったのでした。このように後白河上皇は熊野詣でを修行として都から往復六百キロの距離を一月の歳月を要して実に三十四回も参拝されたそうです。そして藤原定家は疲労困憊の末に本宮の姿を目にした時、実に素直に「感涙禁じがたき」と書き残されたそうです。

鎌倉時代になると武家から一般庶民に至るまで、現世安穩と後世極楽を願って多くの人が参詣するようになり「蟻の熊野詣」といわれるほど盛んであった、との事でした。

もともと日本の宗教は神仏集合として信仰されていましたが、明治維新の廃仏毀釈により

神仏が分離されてしまいました。しかし本地垂迹思想によって熊野本宮大社の祭神が阿弥陀如来に、熊野速玉大社の祭神が薬師如来に、熊野那智大社の祭神が千手観音としてお祭りされ、熊野には日本古来の信仰の原点が残されて居りました。亮観拝



旧熊野本宮に祭られる「南無阿弥陀仏」の石碑





日本仏教に登場する仏様を毎号少しづつご紹介。今回は天部の吉祥天を紹介します。

## ● 天部 吉祥天

吉祥天も元々はインド神話に登場する神様で、本名を「ラクシュミー」と言い美と幸福の神でした。このラクシュミーが神格はそのままだに名前だけ変え、仏教の神となったのが吉祥天です。そのため、仏教界においても一番美しく、幸福をもたらす神とされています。その美しさは日本最古の説話集『日本霊異記』に吉祥天の像が美しすぎて恋に落ちてしまった僧侶の話が残っているほどです。

日本には伝わったのは奈良時代とされ、平安時代には『吉祥懺悔会』という吉祥天に全ての罪を懺悔し、鎮護国家や福徳を祈願する法要が行われておりました。

吉祥天には仏教に登場する神仏には珍しく家族構成がしっかりされており、竜王の父と鬼子母神の母の元に生まれ、仏教界を護る四天王の一人、毘沙門天と結婚しています。また吉祥天には「黒闇天」という妹がいるのですがこの妹、実は不幸や災いを司り、貧乏神や疫病神と呼ばれる神様なのです。

その容姿や性格は姉とは正反対とされていますが、姉妹の仲は良く、どこへ行くのも一緒。『涅槃経』という経典には、「私はある家に可憐な女性が現れ福徳を授けます。」と訪ねると、それを聞いた主は喜んで家へ招いた。すると後ろからもう一人ボロボロの衣服を纏った女性が現れ「私は黒闇天。私が行く所災いが起こると言われているわ。」と告げた。

それを聞いた主は急いで黒闇天を追い返しました。すると「先の上があった吉祥天は私の姉。私たちはいつも一緒。私を追い出せば吉祥天も出て行くのよ。」と言って笑いながら二人とも出て行ってしまった。

と言う話があり、幸と不幸は表裏一体なのだと言われています。とは言っても、「私は不幸な疫病神です。」と言われたら誰だっという顔しませんよね。例え不幸な時でも福の神のような優しい笑顔忘れなければ、いつか本当に福の神である吉祥天が微笑んでくれるかもしれませんね。



亮澄拝

奈良県浄瑠璃寺  
秘仏・吉祥天女像

今年梅雨が長く、昨年より比較的過ごしやす日々が続いておりますが、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

## 今年のジャガイモは



さて、今年の東光院ジャガイモ掘りは六月三十日の予定で計画しておりましたが、季節は梅雨のまつた中、連日の悪天候に見舞われ中止の運びとなりました。

てしまいました。例年は七月最初の日曜に行っていましたが、梅雨後では畑が緩み芋が腐ってしまう事もあって日程を早めてみました。しかし天候についてはどうすることもできず、自然を相手にすることの難しさを実感致しました。残ったお芋については、後日空いているときに各自収穫していただきましたが、ともに集い、寄り添いあえるような場を作りたいとの想いで春先から畑を管理し、また当日も取れたてのジャガイモを調理してご接待したいと皆で計画していただけに、今年は大変残念な気持ちです。せめて収穫したお芋を口にすることが、季節を感じ幸せなひとときをお過ごし頂けたのであれば幸いです。



## 深大寺にて施餓鬼会



深大寺では七月七日、大施餓鬼法要が行われました。他の法務と重なってしまい人がいなかったというのがあります。が、七年目にして法要全体を取り仕切る会行事という大役を任せて頂きました。昨年は朝から汗をかきながら準備や片付けを行っていた記憶がありますが、今年はいくらの天候で少し肌寒いくらいのなかでのお勤めとなりました。

## お盆に向けて

深大寺の施餓鬼が終わると、旅立たれた大切な方を身近に感じるお盆の季節が始まります。仏壇の掃除やお供え物を用意して、ご家族親戚、皆様で故人の菩提を祈って手を合わせていただければ幸いです。 亮敬拝

